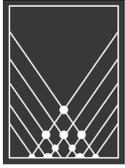


公益財団法人京都高度技術研究所では、「オスカー認定制度」と「京都市ベンチャー企業目利き委員会Aランク認定制度」を通じて、次代の京都経済をリードするベンチャー・中小企業の発掘・育成に取り組んでおります。



オスカー認定  
K Y O T O

# 株式会社アラキ工務店

## ◆当社の沿革

当社は、1925年4月に荒木工務店として創業、1973年3月に社名を現在の株式会社アラキ工務店に改称いたしました。創業以来、地元密着型の工務店として、木造住宅の新築・増改築を手がけてまいりました。

現在社員は23名。そのうち18名は大工職人で、先代からの教えに従い、木材を接合する仕口加工からアフターフォローまで自社で行っております。

2005年に経営革新支援法補助金指定事業所、2006年に財団法人京都市中小企業支援センター（現（公財）京都高度技術研究所）による企業価値創出（バリュークリエーション）支援制度の「オスカー認定」を受けました。同時に、京都市知恵産業創造支援事業補助金（2013年）など、種々の中小企業関連の助成金・補助金についても採択



技術のある大工さんたちにより町家が蘇る

をいただき、木造住宅を取り巻く課題に挑戦しつづけております。

## ◆戦前の住宅改修に特化

当社の主な事業は、中古木造住宅の改修です。中でも、戦前に建てられた京町家や古民家の改修に特化した事業展開を図っており、売上全体の8割を占めています。

建築基準法が制定される1950年5月以前の建物は、「伝統木工法」で建てられています。この工法は、柱や梁を仕口や継ぎ手で接合し、荒壁土が地震の揺れを逃がす免震構造となっています。強さとしなやかさを兼ね備えたこの工法は、現代の住宅のように建物を金具で固める工法とは根本的に異なる考え方に基づいています。こうした建物が長持ちするようにきちんと改修するには、技術のある大工さんが不可欠です。しかしながら、最近はこのような技術を育てる機会がなく、ノミやカンナといった手道具を使える大工さんがすっかり少なくなりました。

その原因として、「住宅の画一化・機械化」があげられます。現代の住宅は、効率化の観点から



休日、カンナ砥ぎの練習に自主的に集まる



(左)【根継】柱の腐朽した部分を切り取り根継をする  
(右)【イガミツキ】傾いた建物を油圧ジャッキで垂直に起こす

工場で加工された部材を組み立てるもので、大工さんの技術はそれほど問われません。また、内装も印刷された木材を張るだけで、和室の造作を覚える場もないのです。

残念ながら、ノウハウのある大工さんが見つからないため、取り壊される京町家や古民家もあります。しかし、当社では、技術力の高い大工さんがたくさんいるため、伝統的な建造物を昔ながらの工法で復元することができます。先代から住み続けてきた愛着のある建物を残していきたいというお客様のニーズに応え、大切な京都の町並を守っていきたく願っています。

### ◆高い技術が求められる構造改修

築100年を超える建物は、経年劣化が進み、そのままでは住めない場合が少なくありません。

雨漏りを放置したため、梁や土台がシロアリに喰われてぐさぐさになっていたり、排水管から漏れ出た水が床下の土を押し流し、柱が大きく沈下したりといろんなところが傷んでいます。屋根が

朽ちて部屋の中に池ができていたり、建物が大きく倒れて、50cm離れた隣の家にぶつかっているというケースまであります。

当社では、一般的に「壊したほうが早くて安い」といわれるような住宅でも、しっかりと直してきました。

柱が腐っていても、その部分を切り取って根継をすれば、新材と同じ強度に復元する事ができます。梁が腐っている場合は、壁を一旦左右に広げて梁を入れ替えます。

また、建物が沈下していても、「揚げ前」といわれる技法で建物を浮かし、将来沈下しないように基礎を造りなおす事もできますし、大きく傾いている場合は、「イガミ突き」といわれる技法で真直ぐの状態に戻す事もできます。

あまりにも傷みが激しく、最初は改修できないと思われた建物も、経験を積み重ねることで修復できるようになりました。これが大工さんたちの自信につながり、愛社精神の醸成にも寄与していると思います。

公益財団法人京都高度技術研究所では、「オスカー認定制度」と「京都市ベンチャー企業目利き委員会Aランク認定制度」を通じて、次代の京都経済をリードするベンチャー・中小企業の発掘・育成に取り組んでおります。



復元された伝統的な京町家の意匠



古材倉庫で再利用可能な材料をストック

### ◆京町家を再生する意義

京町家は、よく吟味された材料を使い、しっかりとした技術で組み立てられています。きちんと直せば、さらに長年住み続けられます。「暗い・寒い・危ない」といった問題は、現代の智恵で乗り越えられます。

町家の良さを残し、基礎や構造から修復する事で、歴史的な町並や京町家を保全するのが当社の役目だと考えています。町家は生活の智恵や工夫がたくさん詰まっています。きちんと直せば、100年後まで住み続ける事ができ、おのずと愛着が生まれます。そこに住むことで、建物を大切に、自然と京都らしい住まい方を継承することができるのです。

そして、100年後に「京都に町家があってよかった」といわれるように、町家の保存・再生に尽くしていきたいと考えています。

### ◆古材のストックと再利用

古い住宅の再生には、建物に合った建築材料が欠かせません。そのために当社では、「あらか古材倉庫」事業を行っています。当社第1倉庫の3階及び、花の寺倉庫を保管場所とし、様々なルートから古い柱・梁・地板・建具などを収集しています。建具は1,000枚を超えるストックを確保しております。

柱や梁などの構造材は、新材だと反ったり縮んだりしますが、古材ならそのような心配がありません。また、ベンガラ塗りの上に何十年と油拭きした建材の深みができます。

建具も同様です。今では作れない硝子や、手に入らない材料が使われており、大変重宝します。京町家の場合、古建具の寸法は高さ1,730mmと決まっているので、使いやすいのも利点です。

頂戴した古材を再利用すると、お客様に喜ばれるのですが、当社では、提供して下さった方にも連絡し、第二の人生を歩みはじめた古い梁や建具の"今"をお伝えしています。



空き家の見回り事業

### ◆京町家を保存する活動

当社は小さな大工集団で、改修できる町家は、年間で20～30軒程度です。よって、当社だけの取り組みでは、京都の町並みを残すことはできません。より多くの京都の設計士さん、大工さん、工務店さんにも、当社のような活動をしてもらわなければなりません。

当社は、「京町家作事組」創成期からその活動に関わってまいりました。この組織は、京町家を伝統的な技法で改修できる技術者の集団です。毎年、多くの京町家の修復を担ってきました。

活動の一環として、2年間かけて職方を育成する「京町家棟梁塾」が開催されています。現塾長は当社会長の荒木正亘が務めております。今年で8期目になっており、多くの塾生が巣立っています。

また、当社の一角はNPO法人「古家改修ネットワーク」の事務所も兼ねています。今は、主に空き家の管理事業や、古家改修相談事業を行っています。

次の世代に京町家を引き継いでいくためには、町家にお住まいの方の意識を変えるだけでなく、大工さん、工務店さんの意識も変える必要があるのです。

京都には、まだ、たくさんの大工さん（そのほとんどが一人親方）がおられますが、手間賃も安く、後継者不足でどんどん廃業されているのが実情です。そのような方々がお元気うちに、昔の仕事を思い出し、一人でも多くの後継者を増やしていただくことが大切だと考えています。そのためには、町家に住んでいる方に伝統的な仕事の良さを分かっていただき、大工さんの腕が発揮できる場を増やしていかなければなりません。当社は、京町家作事組以外にも、「古材文化の会」「日本民家再生協会」「京町家再生研究会」などにも参画しており、保存・活用の輪が広がることで、一軒でも多くの町家が住み継がれる事を願ってやみません。

今後も当社は、毎日の仕事を通じて、たくさんの大工さんを育て、京都全体の町並み再生の一端を担っていきたいと考えています。

会社名 株式会社 アラキ工務店  
 代表者 代表取締役 荒木 勇  
 住 所 〒615-0906  
 京都市右京区梅津高畝町52番地2  
 連絡先 TEL 075-882-8668 FAX 075-821-1301  
 メール info@kyoto-kozai.com  
 設 立 1973(昭和48)年3月  
 資本金 2,000万円  
 事業内容 総合建設業(一般建築・社寺・数寄屋建築)  
 U R L 本 社 <http://www.kyoto-araki.jp>  
 古材倉庫 <http://www.kyoto-kozai.com>  
 N P O <http://www.akiya-mimamori.com/>

オスカー認定制度・・・経営革新により、持続的な成長が期待される将来性の高い中小企業を発掘・認定し、経営面を中心に支援を実施する制度です。「オスカー認定企業」は同制度により認定された企業 ※認定企業数165件(平成28年8月31日現在)